タイトル：目的をもって植えられている

聖書箇所：エレミヤ 29:4–7、マタイ 5:13–16

おはようございます。
この日曜日の朝、ここ大阪で皆さまと礼拝をささげることができることを、大変うれしく、また光栄に思います。

私の名前はエドワード・ローと申します。シンガポールの母教会から、温かいご挨拶をお届けします。
今日は妻のルーシーと、教会の数名のメンバーと共に大阪に来ています。
私たちはミッションのためにここを訪れ、キャシー牧師と協力してアウトリーチの働きを行っています。

私はシンガポールの教会で平信徒のリーダーとして仕えており、すでに退職していますが、今もなお神がさまざまな機会を与え続けてくださり、感謝しています。
こうして日本の皆さまと共に礼拝をささげ、この街で神が働いておられるご様子を見ることができるのは、本当に大きな祝福です。

今朝は、神がご自分の民をどこに置かれ、どんな目的を与えておられるのかについて、メッセージを分かち合いたいと思います。
私たちが日本出身であれ、他国から来ていようと、神の目的は変わりません。

この教会は特別な集まりだと伺いました。

ここには、多くの国々・多様な背景を持つ方々が集っています。
仕事のために来られた方、日本人と結婚して家庭を築いている方、長期滞在の方もいれば、短期の滞在の方もいます。

この美しい多様性は、聖書に登場する神の民を思い起こさせます。

神の民は、しばしば外国へ散らされ、見知らぬ土地で暮らすことがありました。
それでも、どこにいても「神の民」であるようにと呼ばれていました。

今日のメッセージのテーマはこれです。
「目的をもって植えられている」

皆さんが日本にいる理由は、仕事、結婚、学業、あるいは人生の一時期のためかもしれません。
しかし神のことばによれば —— あなたは偶然ここにいるのではありません。

神があなたをここに植えられたのです。
そして、神はあなたの人生に目的を持っておられます。

---

1. 神は私たちをその場所に置かれる —— 神の使命のために

エレミヤ 29:4–7 に、バビロンに捕らえ移され、故郷から離れたイスラエルの民の姿があります。
彼らは困惑し、落胆していました。

「なぜここにいるのか？ 神は私たちを見捨てたのか？」

その彼らに、神はこう語られました。

「家を建てて住みつき、畑を作ってその実を食べよ。
わたしがあなたがたを引いて行ったその町の平安を求め、そのために主に祈れ。
その町が栄えれば、あなたがたも栄えるからだ。」

バビロン ——
彼らにとっては言語も文化も食べ物も宗教も違う、外国の地でした。
多くの人がホームシックだったことでしょう。

それでも神は言われました。

「よい時が来るのを待ちなさい、と言っていない。
ただの旅人のように生きるのではなく、家を建て、根を下ろして生きなさい。
この町のために祈り、尽くしなさい。」

皆さん、これは力強いことばです。

たとえ故郷から離れ、家族や慣れ親しんだ環境から遠く離れていても、
あなたは神の目的から遠く離れてはいません。

神があなたをここに連れて来られました。
仕事でも、学校でも、結婚でも、人生の一季節であっても ——
あなたは「神が植えられた種」です。
種は根を張り、成長し、多くの実を結ぶために植えられるのです。

日本で「家を建てる」とは何でしょうか？
それは、ただの滞在者のように生きないことです。
ここに心を置き、関係を築き、言語を学び、この土地と人々を愛することです。

「畑を作り、その実を食べよ」とは、ここで実を結ぶことです。
勤める場所で誠実に働くこと。
学んでいる人は勤勉に学ぶこと。
子どもを育てているなら、神を愛し、この国を愛する子どもに育てることです。

そして神は言われます。

「この町の平和（シャローム）を求めよ」

シャロームとは、単なる平和ではなく
「繁栄」「健全さ」「満たされた状態」です。

つまり神はこう言われています。

「あなたを置いたこの土地が繁栄するように働きなさい」

日本を祝福する人となること。
法律を守り、文化を尊重し、地域社会に参加し、周りの人に親切にすること。

そして祈りましょう。
日本の指導者のために。
家庭のために。
若い世代のために。
そしてリバイバルのために —— この国の心が神に向くように。

神の約束は今も生きています。

「その土地が栄えれば、あなたがたも栄える」

だから皆さん、

ただ日本に住むのではなく —— **日本を愛してください。**
ただ日本に滞在するのではなく —— **日本に仕えてください。**
ただ日本で働くのではなく —— **日本で神を礼拝してください。**

あなたはよそ者ではありません。
神の大使です。
この地への「神の派遣」です。

だから、建て、植え、祝福し、祈ってください。
あなたを通して、この国は神の恵みを味わうようになるでしょう。

---

2. すべてのクリスチャンは宣教師である

第一ペテロ 2:9–10 にはこうあります。

「あなたがたは選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神の所有とされた民…
その方のすばらしい御業を宣べ伝えるためである。」

ペテロはこれは牧師だけに語ったのではありません。
普通のクリスチャンに語ったのです。

つまり、
すべてのクリスチャンが宣教師です。

海を越えて行く人だけではありません。
道を一本渡るだけでも宣教師です。

あなたの宣教地は、あなたの足が立っているその場所から始まります。
神があなたを植えられた場所から始まります。

日本では、信頼関係はゆっくりと築かれます。
だから良い知らせは、大きなイベントよりも、
日々の生活と友情を通して最も強く伝わります。

講壇に立つことがなくても、
あなたは毎日キリストを伝えることができます。

- 優しく接するとき、あなたはキリストの愛を伝えています。
- 許すとき、あなたは神のあわれみを示しています。
- 真実を守るとき、あなたは神の義を証ししています。
- 誰かのために祈り、教会に誘うとき、それは宣教の働きです。

宣教師であるとは、
どこへ行くかよりも、
「キリストにあるあなたが誰か」の問題なのです。

---

3. クリスチャンの召し —— 地の塩、世の光であること

マタイ 5:13–16 でイエスは語られました:

「あなたがたは地の塩です。
あなたがたは世の光です。
山の上にある町は隠れることができません。
…あなたがたの良い行いを見て、天の父をあがめるようになるためです。」

古代の塩は貴重で、命を保つために不可欠でした。
腐敗を防ぎ、傷を癒し、食物の味を引き立てました。

イエスは言われました。
「あなたがたは地の塩」— あなたは世界の善を守り、癒し、味を加える存在だと。

日本では、美味しいものを食べると「うま味がある」と言いますね。
もしイエスが今日日本で説教されたなら、こう言われたかもしれません。

「あなたがたはこの国の“うま味”です。」

うま味は本来の美味しさを引き立てます。
同じように、神の民は世界の善さを引き立てます。

小さな親切、静かな誠実さ、小さな祈り ——
それらは社会を変える力を持っています。

光についても同じです。

暗闇の中で、
大きなライトは必要ありません。
一本のロウソクで十分です。

あなたの小さな光が、誰かを救うかもしれません。

日本は物理的な光に満ちています ——
ネオン、LED、明るい都市。
しかし、多くの人は心の中に暗闇を抱えています。

孤独、疲れ、虚しさ、重圧。

あなたの光こそ、そこで輝く必要があります。

隠さないでください。
恐れないでください。
あなたは「山の上の町」です。

---

4. 招きのことば（省略部分はそのままにしています）

まだイエス・キリストを信じておられない方々にも、お伝えしたいことがあります。
（ここから先の部分は、元の文書では未記入のままになっています）

---

5. 結び

大阪インターナショナルチャーチの皆さん、
最後にこれを覚えてください。

私たちは偶然ここにいるのではありません。
どこから来たとしても、どのような理由で日本に来たとしても、
神はあなたを目的をもってこの地に植えられました。

クリスチャンである私たちは、この国で塩と光として生きるように召されています。
親切、誠実、愛を通して日本を祝福してください。
この地の「うま味」となり、周りの人々に神の良さを味わわせてください。

そして今日イエス・キリストを信じた方々 ——
天では天使たちが喜び、私たちも心から喜んでいます。
どうか共に、この地で塩と光として歩んでいきましょう。

アーメン。

それでは、最後に賛美をもって神に応答しましょう。
「Here I am, Lord. Send me.（主よ、ここに私がいます。私を遣わしてください）」